

インターネットでの情報提供	
提供予定日	6月1日

平成23年5月31日		県政記者クラブ配付資料	
所 属	係(担当)	担 当 者	内 線
教育総務課	中等教育企画担当	高橋 宗彦	3507

岐阜県立高等学校入学者選抜に関する諮問会（第2回）の議事概要について

本日、「岐阜県立高等学校入学者選抜に関する諮問会（第2回）」を開催しましたので、議事概要を報告します。

- 1 日 時 平成23年5月31日（火） 午前10時～正午
- 2 場 所 教育委員会室(岐阜県庁11階)
- 3 委員名簿 (別紙)
- 4 審議内容 (1) 第1回諮問会 (H23.2.24) の審議内容についての確認
(2) 今後の高等学校入学者選抜の改善の方向性について

(1) 第1回諮問会 (H23.2.24) の審議内容についての確認

- 入試期間が長期化することの弊害は大きく、受検生の心情や中学校や高校の日常の教育活動に良い影響は与えていないのではないか。
- 生徒の評価を一元的でなく多元的に行うという現行制度の趣旨には共感する部分が多い。ただし、入試期間が長期化することの課題が多いため、その弊害を取り除きながら、多角的な尺度による評価は残すとといった改善が望ましいのではないか。

(2) 今後の高等学校入学者選抜の改善の方向性について

- 「特色化選抜」及び「一般選抜」からなる現行制度を見直し、現行制度が抱える課題解決のため、抜本的な改善を図る必要がある。
- 「特色化選抜」と「一般選抜」の2回に分けて実施している入試を、1回に集約し、県統一の学力検査をすべての受検生に課した上で、学校独自の選抜方法も工夫できるような要素を取り入れた制度はどうか。

- 1回の入試に集約した上で、学校独自の選抜方法も工夫すれば、現行制度の利点を継承しながら、受検生の心理的負担や入試期間の長期化による弊害等、現行制度の課題を改善することができるのではないかな。
- 今後は、多元的尺度による評価の一つとして、学校独自の選抜方法のより具体的な検討が必要となってくる。
- すべての受検生に学力検査を課すことは、入試の公平性の観点からも良いのではないかな。
- 中学校での学習の成果を、すべての受検生が、十分に発揮できるような検査内容であってほしい。

(3) その他

- 新しい入試制度は、早ければ、現在の中学2年生からの導入が見込まれるが、特に受検生にとっては、入試制度の変更は非常に大きな影響を及ぼすため、事前の周知をできるだけ早く、できるだけ丁寧に行ってほしい。
- 本日の審議内容を踏まえて、今後は制度のより具体的な内容について、検討を深める必要がある。

◆ 今後の審議について

- ・ 本日の審議内容を事務局において整理・検討の上、次回の諮問会において継続して審議する。